

# ベトナムに活路を見出す

大浜 聖 (おおはま ひじり) 株式会社サーマル 取締役営業部長

エレクトロヒートシステムは、ヨーロッパやアメリカはもとより、中国、タイ、インドなど、広く海外に普及が進んで来ている。エレクトロヒートセンターの会員企業の海外展開の活動を中心に、お国柄や商慣習の違いなども含めて、全6回で連載を行う。

## 1. 初めてのベトナム

空港ビルを出ると熱い南国の空気が身体にまとわり付き、日本ではない事を実感できた一瞬である。

でも何かが違う。何度も足を運んだマレーシア、大都会シンガポール、雨にたたられたインドネシア、南国らしい雰囲気と匂い。でもここはどことも違う匂い。

不思議な感覚で市街地へ移動のためのタクシーを探していると、今度は空気ではなく人がまつわりついてくる。中にはバックに手をかけて引っ張るものもいる。

いわゆる白タクらしい。事前に聞いていたので無視してタクシー乗り場へ。タクシー乗り場でも案内する人が多くいて、どうすればよいか全くわからない。とりあえず手招きされたまま乗車。行き先を告げたが通じない。ホテルの予約票を見せて何とか出発。

ホテルまでの道のりで騒然とした街並みに唖然！

けたたましいクラクションの嵐と圧倒的な数のバイクの群れ。言葉も無く社外の風景に魅入られる事しばし。



スクーターと見られるバイクに父親と母親と子供と思われる三人乗りに思わず、「三人も乗って危ない！」との言葉に隣の窓から見ていた同僚が「こっちには5人乗りもいる！」。運転手の前に子供一人、後ろに乗った母親との間に子供二人。スゴイ！ホテルに着くまで危ない場面を何度も見て、いつ事故に巻き込まれるのかヒヤヒヤとした30分。

無事にホテルに到着。言葉のわからないチェックイン手続きで、多分英語で少し待ってくれといわれたと思うが、理由がわからないまま40分程度待たされてようやく部屋へ。ホテルに着くまでに疲れてしまった。

それにしても言葉がわからない。もう少し単語だけでも英語がわかると思っていたら全くわからない。ホテルはまだ良いが店では英語で話しているらしいが発音が良くわからない。もともと英語が出来ない自分のせいだとあきらめていたら、よく欧米に行く知り合いから「違うよ！ここの英語はちょっと違うから、なれないと理解できないよ」と、これからが大変だ。

初めてのベトナムでとりあえず街にでて雰囲気を味わうために散策をする。ここで空港で感じた違いが。

